

# 米国農務省穀物等需給報告(2023年5月12日発表のポイント)

令和5年5月15日  
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、5月12日(現地時間)、2023/24年度の1回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2023/24年度の穀物の生産量は消費量を上回る見込み

## 1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 28億1,982万トン(対前年度比 3.0%増)
- ② 消費量: 28億1,020万トン(対前年度比 1.5%増)
- ③ 期末在庫量: 7億6,981万トン(対前年度比 1.3%増)  
期末在庫率: 27.4%(対前年度差 0.1ポイント減)

### 【主な品目別の動向】

**小麦** : 世界の生産量は、ロシアで単収・収穫面積が過去最高だった前年度より低下することや、豪州で単収が平年並みにもどる見通し等から減産も、アルゼンチンで前年度の干ばつから回復することや、インド、EU等で増産となることから史上最高となる見通し。世界の消費量は、ウクライナ、インド、ロシア等で飼料用需要の減少から、前年度から減少する見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、米国の生産量は前年度からわずかに増加する見通し。また、ウクライナの実産量及び輸出量はロシアとの戦争の継続を受け前年度より減少する見通し。

- 1 生産量: 7億8,976万トン(対前年度比 0.2%増)・アルゼンチン、インド、EU、カナダ、中国等で増加、ロシア、豪州、ウクライナ、カザフ等で減少
- 2 消費量: 7億9,170万トン(対前年度比 0.4%減)・EU等で増加
- 3 期末在庫量: 2億6,434万トン(対前年度比 0.7%減)・インド等で増加、ロシア等で減少  
期末在庫率: 33.4%(対前年度差 0.1ポイント減)

**とうもろこし** : 世界の生産量は、ウクライナやブラジルで前年度より減産も、米国で単収及び収穫面積が増加し生産量が史上最高となることや、アルゼンチンで前年度の干ばつから回復すること等から史上最高となる見通し。世界の消費量は、前年度を上回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。なお、米国の輸出量は、増産に伴う国際的なとうもろこし価格の低下から大幅に増加する見通し。また、ウクライナの実産量及び輸出量は前年度より減少する見通し。

- 1 生産量: 12億1,963万トン(対前年度比 6.0%増)・米国、アルゼンチン、EU、中国等で増加、ウクライナ等で減少
- 2 消費量: 12億414万トン(対前年度比 3.7%増)・米国、中国、ブラジル等で増加
- 3 期末在庫量: 3億1,290万トン(対前年度比 5.2%増)・米国等で増加  
期末在庫率: 26.0%(対前年度差 0.4ポイント増)

**コメ(精米)** : 世界の生産量は、パキスタン、中国、米国等で前年度より増産となること等から、史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国等で減少もインド等で増加することから史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。

- 1 生産量: 5億2,052万トン(対前年度比 2.4%増)・パキスタン、中国等で増加
- 2 消費量: 5億2,302万トン(対前年度比 0.3%増)・中国等で減少
- 3 期末在庫量: 1億6,668万トン(対前年度比 1.5%減)・インド等で減少  
期末在庫率: 31.9%(対前年度差 0.6ポイント減)

## 2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、米国で前年度より単収が増加することや南米で前年度の干ばつから回復することから生産量は史上最高となる見通し。世界の消費量は、アルゼンチン、中国等で搾油量が増加することから、前年度を上回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 4億1,059万トン(対前年度比 10.8%増)・アルゼンチン、ブラジル、米国等で増加
- 2 消費量: 3億8,649万トン(対前年度比 5.9%増)・アルゼンチン、中国、ブラジル、米国等で増加
- 3 期末在庫量: 1億2,250万トン(対前年度比 21.2%増)・ブラジル、アルゼンチン、米国、中国等で増加  
期末在庫率: 31.7%(対前年度差 4.0ポイント増)

## 世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2023年5月12日発表)

### 【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (予想)	2023/24		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		2,798.13	2,738.00	2,819.82	3.0%	-	2,295.7
消費量		2,803.55	2,768.15	2,810.20	1.5%	-	2,284.4
期末在庫量		790.34	760.19	769.81	1.3%	-	480.9
期末在庫率		28.2%	27.5%	27.4%	▲ 0.1	-	21.1%
<b>小麦</b>							
生産量		780.29	788.26	789.76	0.2%	-	660.5
消費量		793.12	794.65	791.70	▲ 0.4%	-	680.0
期末在庫量		272.67	266.28	264.34	▲ 0.7%	-	181.1
期末在庫率		34.4%	33.5%	33.4%	▲ 0.1	-	26.6%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		1,503.97	1,441.33	1,509.53	4.7%	-	1,159.1
消費量		1,491.66	1,451.98	1,495.48	3.0%	-	1,139.5
期末在庫量		335.39	324.73	338.78	4.3%	-	175.7
期末在庫率		22.5%	22.4%	22.7%	0.3	-	15.4%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		1,217.31	1,150.20	1,219.63	6.0%	-	898.8
消費量		1,202.07	1,160.94	1,204.14	3.7%	-	877.4
期末在庫量		308.15	297.41	312.90	5.2%	-	144.8
期末在庫率		25.6%	25.6%	26.0%	0.4	-	16.5%
<b>コメ(精米)</b>							
生産量		513.87	508.41	520.52	2.4%	-	476.1
消費量		518.77	521.52	523.02	0.3%	-	464.9
期末在庫量		182.28	169.18	166.68	▲ 1.5%	-	124.1
期末在庫率		35.1%	32.4%	31.9%	▲ 0.6	-	26.7%

### 【大豆】

項目	年度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (予想)	2023/24		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		359.85	370.42	410.59	10.8%	-	268.8
消費量		363.82	364.87	386.49	5.9%	-	265.2
期末在庫量		98.67	101.04	122.50	21.2%	-	58.4
期末在庫率		27.1%	27.7%	31.7%	4.0	-	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 12, 2023)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

## 米国の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2023年5月12日発表)

### 【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (予想)	2023/24		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		448.60	408.46	453.29	11.0%	-	353.0
消費量		360.68	348.04	359.39	3.3%	-	317.1
輸出货量		94.85	70.50	81.49	15.6%	-	51.6
期末在庫量		57.85	55.72	75.61	35.7%	-	44.2
期末在庫率		12.7%	13.3%	17.1%	3.8	-	12.0%
<b>小麦</b>							
生産量		44.80	44.90	45.16	0.6%	-	61.3
消費量		29.61	29.94	30.26	1.1%	-	37.8
輸出货量		21.78	21.09	19.73	▲ 6.4%	-	27.5
期末在庫量		19.01	16.28	15.12	▲ 7.1%	-	19.5
期末在庫率		37.0%	31.9%	30.2%	▲ 1.7	-	29.9%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		397.71	358.47	402.01	12.1%	-	285.3
消費量		326.28	313.31	324.23	3.5%	-	275.5
輸出货量		70.46	47.47	59.41	25.2%	-	20.7
期末在庫量		37.58	38.56	59.50	54.3%	-	23.5
期末在庫率		9.5%	10.7%	15.5%	4.8	-	7.9%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		382.89	348.75	387.75	11.2%	-	273.2
消費量		317.12	303.67	314.59	3.6%	-	263.0
輸出货量		62.78	45.09	53.34	18.3%	-	18.5
期末在庫量		34.98	35.98	56.43	56.8%	-	20.9
期末在庫率		9.2%	10.3%	15.3%	5.0	-	7.4%
<b>コメ(精米)</b>							
生産量		6.08	5.09	6.12	20.2%	-	6.3
消費量		4.80	4.79	4.89	2.1%	-	3.8
輸出货量		2.61	1.94	2.35	21.1%	-	3.4
期末在庫量		1.26	0.88	0.99	12.5%	-	1.2
期末在庫率		17.0%	13.1%	13.7%	0.6	-	16.1%

### 【大豆】

項目	年度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (予想)	2023/24		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		121.53	116.38	122.74	5.5%	-	82.8
消費量		62.77	63.69	66.29	4.1%	-	48.6
輸出货量		58.72	54.84	53.75	▲ 2.0%	-	36.1
期末在庫量		7.47	5.86	9.11	55.5%	-	3.8
期末在庫率		6.1%	4.9%	7.6%	2.6	-	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 12, 2023)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出货量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。  
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

## 世界の穀物等の価格動向 (2023年)

● 小麦 : 6.47 ドル/bu (前年同時期の価格 : 10.97 ドル/bu)

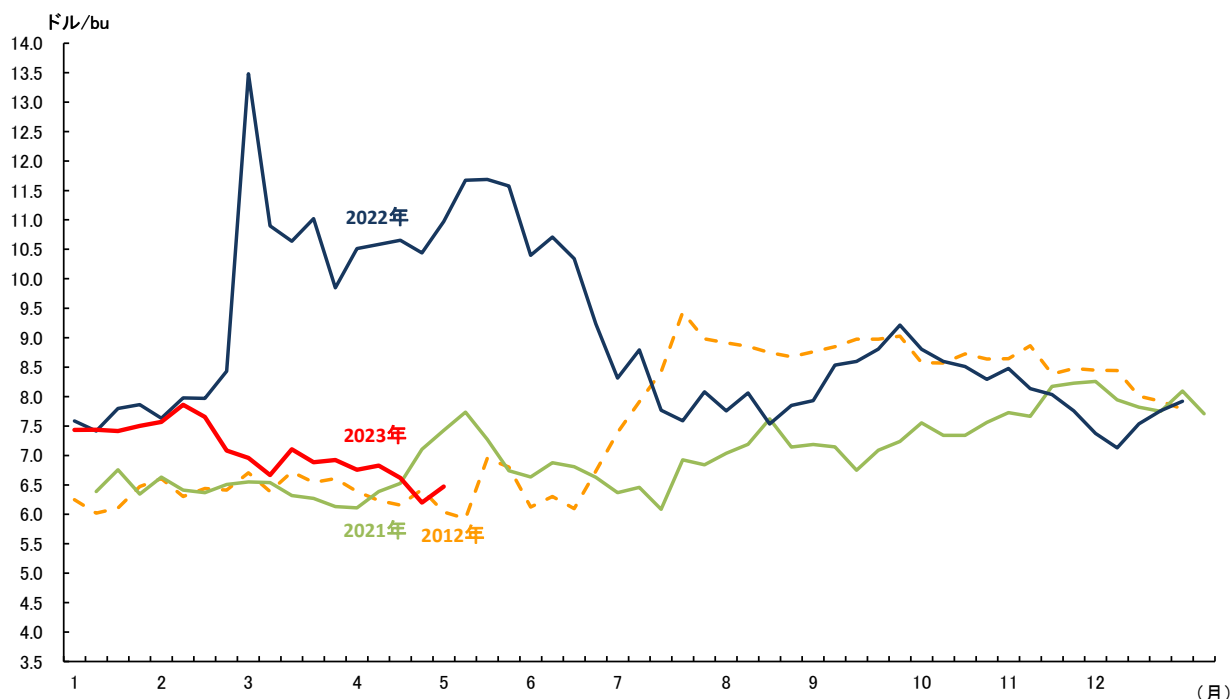
【価格は、シカゴ商品取引所における2023年5月第1週末のセツルメント価格。史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022年3月7日)】

1月に入り、ロシア、ウクライナ等からの供給増加等から7ドル/bu台前半に値を下げたものの、冬小麦生産地の米国大平原で乾燥による作柄悪化懸念から7ドル/bu台半ばに値を上げた。その後、同地の降雨で7ドル/bu台前半に値を下げたものの、次いで寒波による作柄悪化が懸念され7ドル/bu台半ばに値を上げた。

2月に入り、7ドル/bu台半ばで推移したものの、ロシアとウクライナの戦闘激化による黒海経由のウクライナ産穀物輸出の先行き懸念等から2月半ばに7ドル/bu台後半に値を上げた。その後、ドル高や米国産のロシア等の黒海産との競合、乾燥が継続していた米国プレーンズでの降雨等から6ドル/bu台後半に値を下げた。

3月に入り、米国産の低調な輸出や、黒海経由のウクライナ産穀物輸出を巡る合意の再延長見通し等から6ドル/bu台半ばに値を下げたものの、同合意の再延長を巡る不透明感から7ドル/bu台前半に値を上げた。その後、18日の合意再延長から6ドル/bu台半ばに値を下げたものの、乾燥天候による米国産冬小麦への影響懸念等から、6ドル/bu台後半に値を上げた。

4月に入り、米国主要小麦産地での天候改善予報や、低調な輸出需要等から6ドル/bu台半ばに値を下げた。その後、ポーランド等がウクライナ産のトランジット(通過)を含め輸入を規制したこと等から6ドル/bu台後半に値を上げたものの、乾燥が継続している米国プレーンズでの降雨予報等から値を下げ、4月末現在、6ドル/bu台前半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

● とうもろこし：6.53 ドル/bu（前年同時期の価格：7.92 ドル/bu）

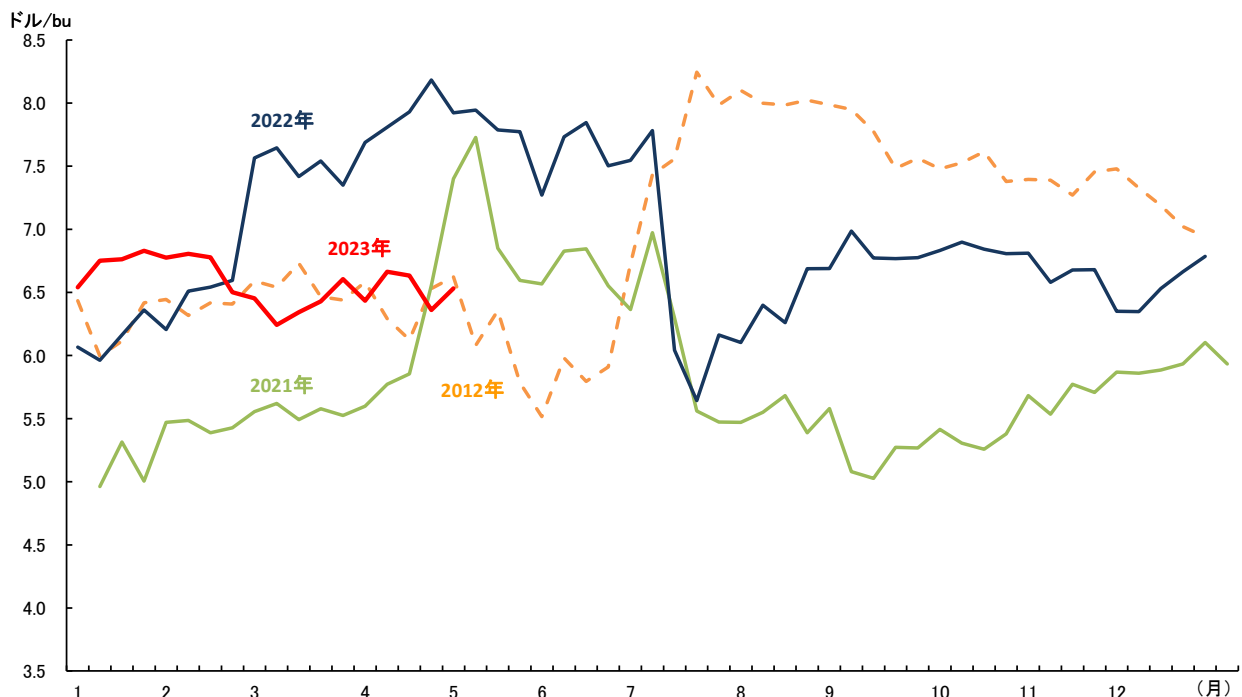
【価格は、シカゴ商品取引所における2023年5月第1週末のセツルメント価格。史上最高値：8.31ドル/bu(2012年8月21日)】

1月に入り、原油相場下落や世界的な景気減速等から6ドル/bu台半ばに値を下げたものの、干ばつによるアルゼンチンの減産懸念等から6ドル/bu台後半に値を上げた。その後、アルゼンチンの降雨等から6ドル/bu台半ばに値を下げたものの、米産の輸出需要増やアルゼンチンの乾燥天候予測等から6ドル/bu台後半に値を上げた。

2月に入り、米産の低調な輸出状況の一方、アルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念やブラジルの大豆収穫遅れに伴う冬とうもろこしの作付け遅れ、ロシアとウクライナの戦闘激化による黒海経由のウクライナ産穀物輸出の先行き懸念等からほぼ横ばいの6ドル/bu台後半で推移したものの、2月中旬以降、米国農務省農産物展望会議での供給拡大予想や、ドル高、米産の輸出需要の減少懸念等から6ドル/bu台前半値を下げた。

3月に入り、米産の低調な輸出状況やUSDA 3月需給報告の予想を上回る米国の在庫量から6ドル/bu台前半に値を下げたものの、アルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念や、黒海経由のウクライナ産穀物輸出を巡る合意の再延長をめぐる不透明感、米産の中国向け輸出需要、米国の低水準の在庫量から値を上げ、3月末現在、6ドル/bu台半ばで推移。

4月に入り、米中西部での天候改善予報等から6ドル/bu台半ばで推移。4月半ばには、米産の中国向け輸出需要や、ポーランド等がウクライナ産のトランジット（通過）を含め輸入を規制したこと等から6ドル/bu台後半まで値を上げたものの、ブラジル産との競合等から値を下げ、4月末現在、6ドル/bu台前半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週末の期近価格（セツルメント）である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

●コメ：518ドル/トン（前年同時期の価格：483ドル/トン）

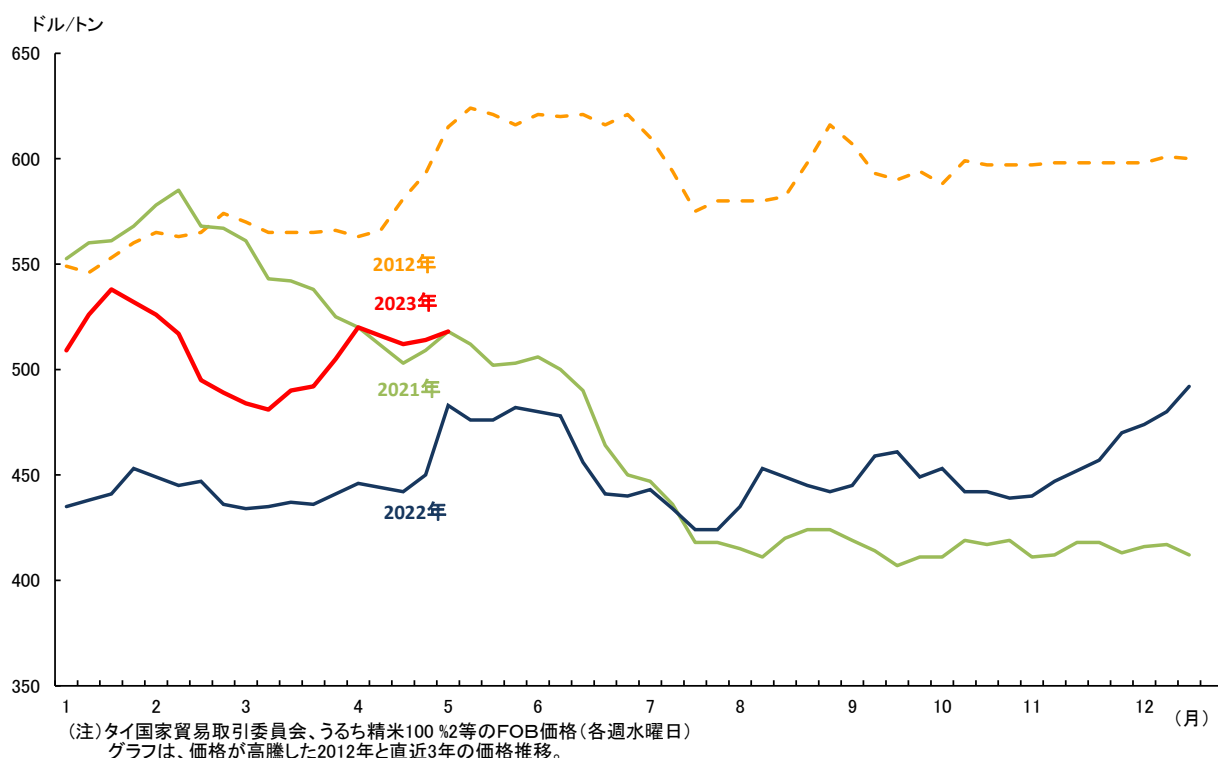
【価格は、タイ国家貿易取引委員会における2023年5月第1水曜日のFOB価格。史上最高値：1,038ドル/トン(2008年5月21日)】

1月に入り、更なるパーツ高や、インドネシアによる政府備蓄不足回復のためのタイ産の輸入増、中東諸国からの需要増により530ドル/トン台後半に値を上げた。

2月に入り、タイ国内での新穀(乾季米)の流通による供給増加見通しや、他国の国内市場でも新穀が流入したことで海外からの需要が軟化したこと、パーツ安、多くの輸入国での旧正月前に積み増した在庫が残っていること等から値を下げ、480ドル/トン台後半で推移。

3月に入り、新穀(乾季米)の市場への流入による供給増加見通しや、低調な海外からの需要、パーツ安等により、一時480ドル/トン台前半まで値を下げた。その後、マレーシアやフィリピン等のアセアン諸国及び西アフリカ諸国の需要増により値を上げ、3月下旬現在、500ドル/トン前後で推移。

4月に入り、インドネシア政府による買付増加見込みや、アセアン・アフリカ諸国からの需要の継続等から、4月上旬に520ドル/トン台前後まで値を上げたものの、タイの旧正月による低調な取引等から値を下げ、4月下旬現在、510ドル/トン台半ばで推移。



● 大豆：14.69ドル/bu（前年同時期の価格：16.56ドル/bu）

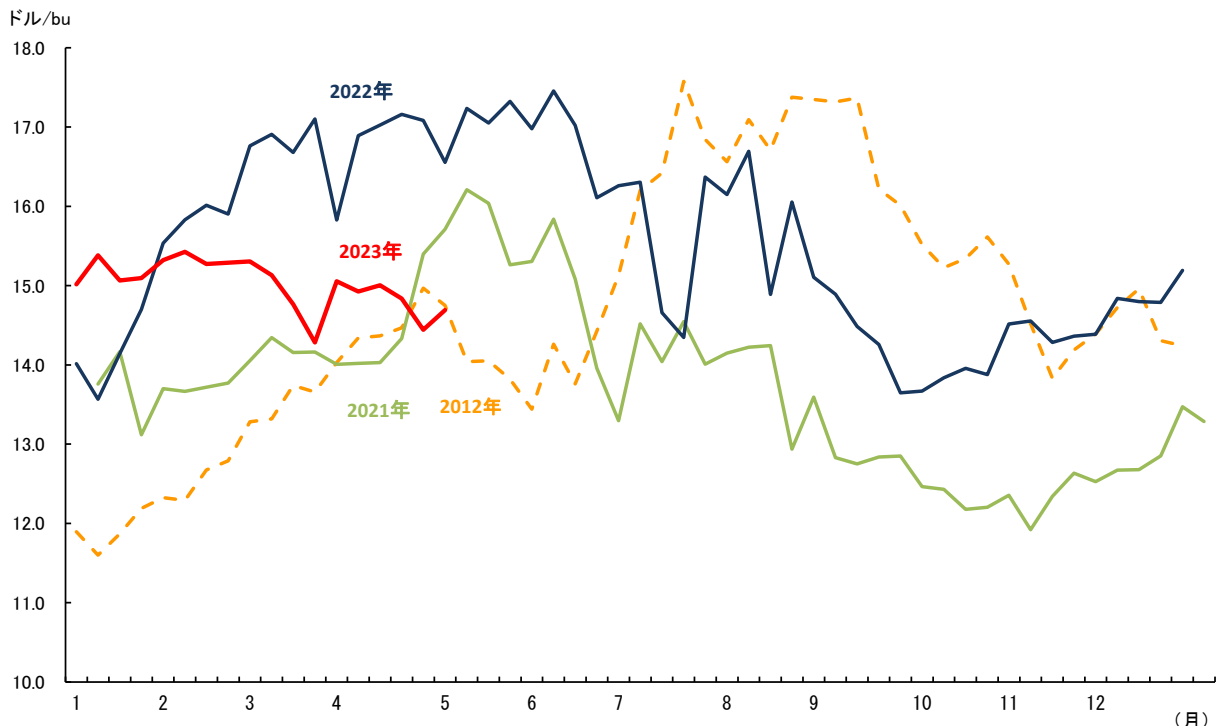
【価格は、シカゴ商品取引所における2023年5月第1週末のセツルメント価格。史上最高値：17.71ドル/bu(2012年9月4日)】

1月に入り、原油相場下落や世界的な景気減速等から14ドル/bu台半ばに値を下げたものの、干ばつによるアルゼンチンの減産懸念等から15ドル/bu台半ばに値を上げた。その後、アルゼンチンの降雨予報、ブラジルの豊作予想等から14ドル/bu台後半に値を下げたものの、米国産の輸出需要増や、ブラジルの収穫遅延、アルゼンチンの乾燥天候予測等から15ドル/bu台前半に値を上げた。

2月に入り、ブラジルの豊作見通しや中国の輸入需要の減退懸念の一方、アルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念や大豆粕価格の上昇、ブラジル主産地での降雨による収穫遅れ等から2月下旬にかけ15ドル/bu台半ばに上昇したものの、2月下旬以降、記録的な豊作が見込まれるブラジル産と米国産との輸出競争の激化懸念から14ドル/bu台後半に値を下げた。

3月に入り、アルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念や大豆粕価格の上昇等により、3月初旬に15ドル/bu台半ばに値を上げたものの、ブラジルの豊作見通しと収穫進展による米国産の輸出減少懸念、原油安等から14ドル/bu台前半に値を下げた。その後、アルゼンチンにおける干ばつによる供給減少予測や、米国で作付意向面積が伸び悩んだこと等から値を上げ、3月末現在、15ドル/bu前後で推移。

4月に入り、3月末の米国農務省公表の作付意向面積及び四半期在庫が市場予想を下回ったこと、OPECプラスの原油の追加減産の方針等を受け、4月初旬に15ドル/bu台前半に値を上げたものの、ブラジルの収穫進展等から14ドル/bu台後半に値を下げた。その後、アルゼンチン産の低水準な生産予測等から15ドル/bu台前半に値を上げたものの、ブラジルの豊作見通しや原油安等により下落し、4月末現在、14ドル/bu台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。

(参考2)

### 1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
108.99	106.78	103.70	105.36	108.65	109.13	109.19	110.11	110.29	109.84	110.17
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
113.10	114.13	113.87	114.83	115.20	118.51	126.04	128.78	133.86	136.63	135.24
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
143.14	147.01	142.44	134.93	130.20	132.68	133.85	133.33			

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート  
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>  
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

### 2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
45.01	52.10	46.28	52.33	55.71	56.55	61.85	69.35	81.39	77.18	77.99
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
80.26	66.15	64.43	60.23	58.96	69.99	71.65	73.90	70.12	61.28	55.02
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
51.90	56.61	49.34	49.51	45.62	42.50	48.46	52.10			

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上  
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC  
Grain Market Indicators」  
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

### 3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
57.03	39.40	52.10	59.06	62.36	61.69	65.16	71.35	72.43	67.71	71.54
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
81.22	78.65	71.69	82.98	91.63	108.26	101.64	109.26	114.34	99.38	91.48
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
83.80	87.03	84.39	76.52	78.16	76.86	73.28	76.41			

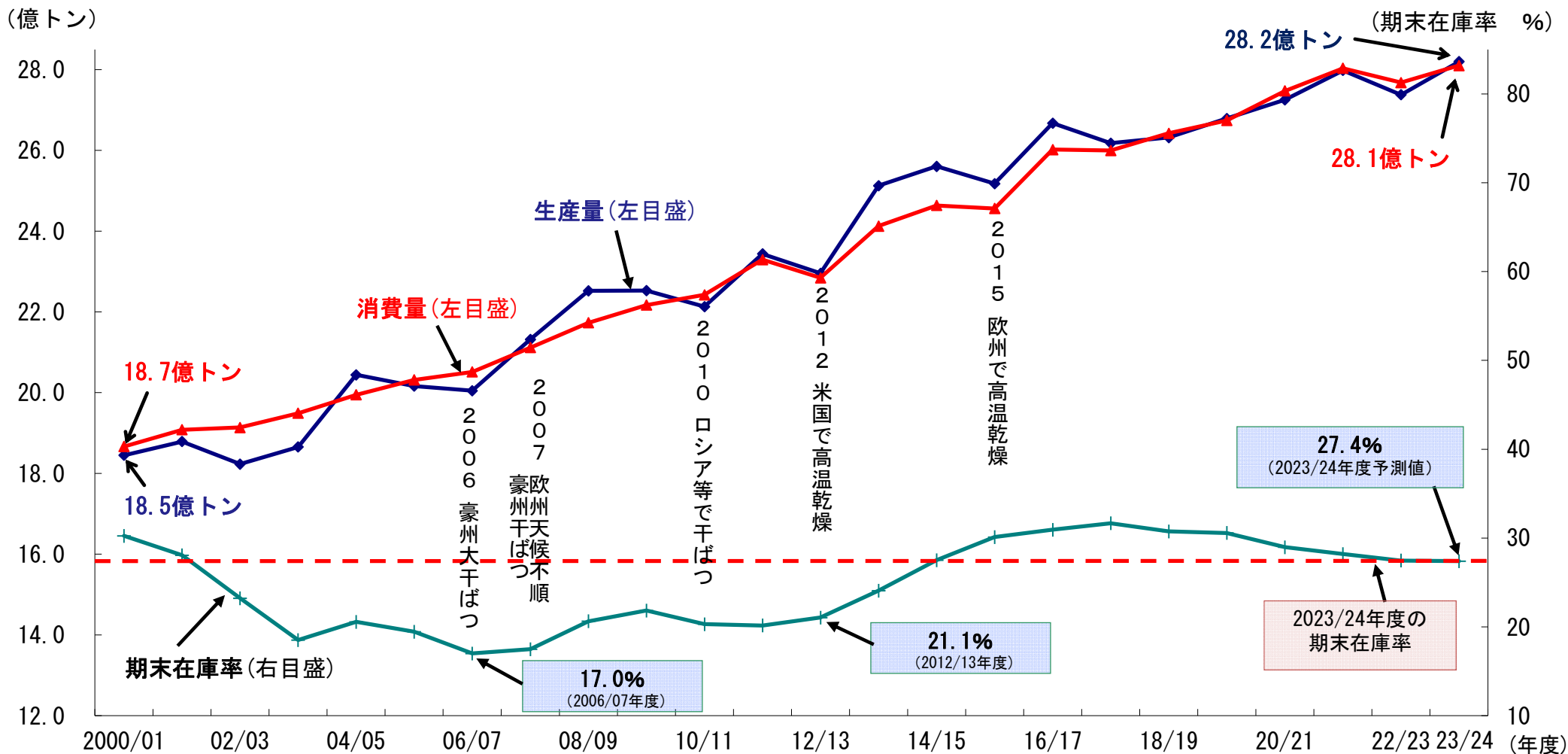
出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ-月次アップデート-」令和5年3月, 124頁  
但し、2023年4月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum  
Status Report」の日次データの平均値



# 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2023/24年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2023/24年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、27.4%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.1%)を上回る見込み。

## □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 2023)、「PS&D」  
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。